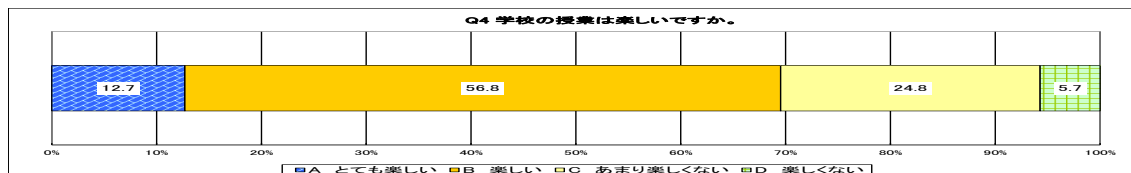
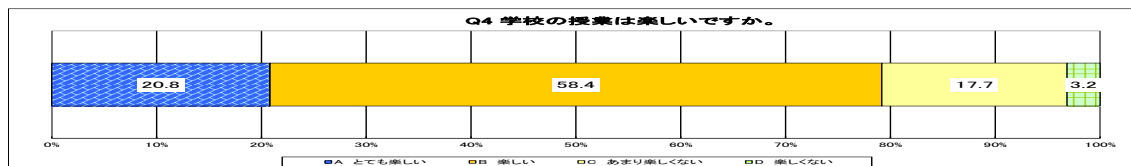


甲斐市立玉幡中学校 自己評価書	
令和6年1月23日（火）作成	
校長 「立川 武」 記述者 職名（教諭）「三井 久」	
学校教育目標 「ふるさとを愛し、高い知性と豊かな情操、たくましい意志と創造的な個性をもつ心身ともに健全な生徒の育成」	
学校経営方針 ・社会に開かれた教育課程を実現するための適切な教育課程の編成・実践に努める。 ・自ら学ぶ習慣を育てる学習方法の改善と、その指導に努める。 ・基本的な生活習慣の確立と、自他の尊重を重んじる「心の教育」を推進する。 ・奉仕活動・ボランティア活動を中心に据えた特色ある学校づくりに努める。 ・健康・安全指導の充実を図り、生涯体育の基礎づくりを目指す。 ・生徒理解に努め、生徒指導・教育相談・防災教育等の充実を図る。 ・小中連携教育の推進を図り、学校・課程・地域の連携を深め、地域とともに歩む教育の推進に努める。 ・学校の教育活動全体を通して、体系的なキャリア教育の推進に努める。	
1 全体評価 ○今年度の総合評価は、内容の改変もあった3年目であるが、昨年同様全てにおいて最頻値がAまたはBの評価となっている。 ○「Ⅰ学校教育目標」の項目では、5項目のうち4項目でB評価が最頻値である。 ○「Ⅱ学校運営」の項目では、8項目のうち2項目でA評価である。 ○「Ⅲ学習指導」の項目では、7項目のうち6項目でB評価が最頻値である。 ○「Ⅳ生徒指導」の項目では、6項目のうち2項目でA評価である。 ○「Ⅴ地域との連携」の項目では、どの項目においてもB評価が最頻値である。 ○「Ⅵ学校の特色」の項目では、4項目のうち3項目がA評価である。 ○「Ⅶ創甲斐教育」の項目では、3項目ともにB評価が最頻値である。	
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
Ⅰ 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	・3項目についてA評価とB評価の合計がほぼ100%である。 ・「あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている」「あなたの学校は、職場の福利厚生や健康増進について配慮がなされている」についての評価は昨年度と同程度である。
改善策	・「あなたはP→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている」について、おおむね肯定的な回答であった。教員が教育活動に取り組む際に、PDCAサイクルを意識することは欠かせない。教職員の働き方改革が必要とされる中、校務支援システムが導入され、勤務時間が記録され明確になり、各自が自分の勤務時間をより意識し管理できるようになった。また、システムの掲示板を利用することで朝礼や終礼の削減につなげるなど、業務改善につながっている面もある。しかしながら、教職員の「業務量」が大幅に軽減しているという訳ではなく、教職員が時間的な面で「ゆとり」をもって業務に取り組んでいるとはまだ言えない。時間的な面での「ゆとり」が精神面での「ゆとり」につながり、そのことで、各々がワークライフバランスや健康増進についてより考えられ

	るようになることを目指したい。取組としては、今年度同様、テストの後の放課後や成績処理用の事務処理日を設けたり、日課時程表を変更し、生徒の活動時間を確保しつつ下校時間を早めたりし、業務改善につなげていく。また、行事の内容や実施時期の検討と改善、会議の精選、仕事の効率化を多忙化の解消につなげていく。そうすることが教員の心身の健康にもつながり、PDCAサイクルを活用し、各教職員が生徒のために日々より良い授業を行ったり学校・学年行事等を行ったりできるよう、今後も組織的に取り組んでいきたい。
Ⅱ 学校運営について	
達成状況	○3項目についてA評価とB評価の合計がほぼ100%である。 ○「あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている」が昨年度よりB評価が高い。 ○「あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている」が昨年度より評価が改善している。 ○「危機管理マニュアル」や「校務支援システム」「働き方改革」等にB評価が多い。
改善策	・「あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている」は、肯定的な評価である。危機管理の観点から重要な項目であるので、今後も継続させたい。 ・コロナ禍の中、今年度5月の五類引き下げまで、様々な場面で教職員が連携し、協働体制で教育活動にあたってきた。そのことが、肯定的な評価の多さにつながったと考える。今後も、教職員が協力して諸課題に対応する姿勢を大切にしたい。 ・「業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている」のA、B評価が増えたのは、前述したように、日課時程表を変更し、生徒の下校時間が最低30分早まったことが業務改善を推し進められる一つの要因となったと推察できる。 ・4年目を迎える校務支援システムについては、それぞれが自己研鑽し、成績処理や事務処理等、努力して使っている。3学年の入試関連の事務手続きも、過渡期から比べると効率化が図られると思われる。校務支援システムの活用については、今後も活用法について研究し、活用できることを探していきたい。 ・「あなたは、危機管理マニュアル（防犯・防災・事件・事故等）を理解している」は、おおむね肯定的な評価である。今年1月に大きな災害が起こってしまったこともあり、日頃から災害時の対応について、また、事件などが起こったときの対応について、各教職員の危機管理意識と対応力が重要だと考える。それぞれのマニュアルについて全体で確認する機会を増やし、危機管理について職員の意識と対応力を高めていきたい。
Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	・「児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている」「基礎・基本の定着を図る授業を行っている」「指導と評価の一体化に努めた授業を行っている」「協働的な学びを取り入れた授業を行っている」「宿題や家庭学習に対する指導を行っている」「生徒が自分の考えを書いたり、表現したりする授業にとりくんでいる」の項目は肯定的な評価である。 ・「ICTを効果的に活用した授業を行っている」においてC評価が3割程度ある。

「生徒・保護者へのアンケート」から

④学校の授業は楽しいですか。(上段 R4 下段 R5) 全校集計



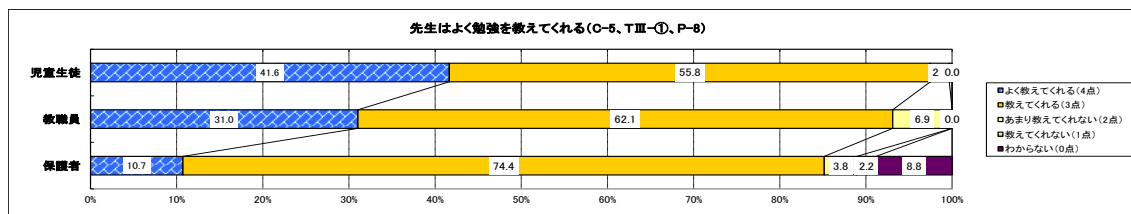
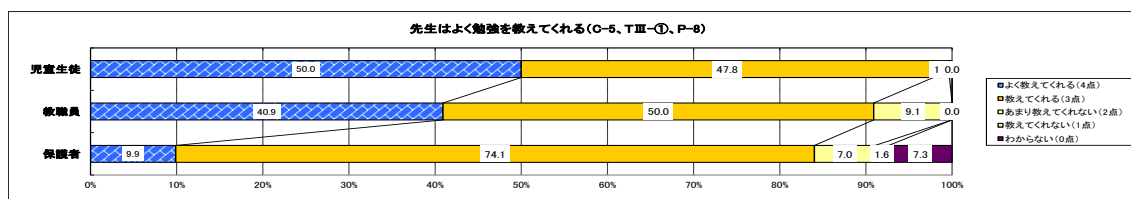
※全校では A 評価と B 評価が 7 割程度で昨年と比べ減り、「C あまり楽しくない D 楽しくない」が 3 割程度で増加している。

関連項目の AB 評価による比較 (上段 R4 下段 R5)

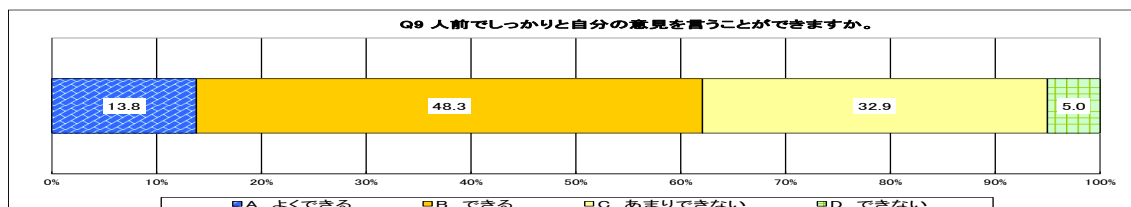
⑤生 徒：先生はよく勉強を教えてくださいますか

教職員：生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている

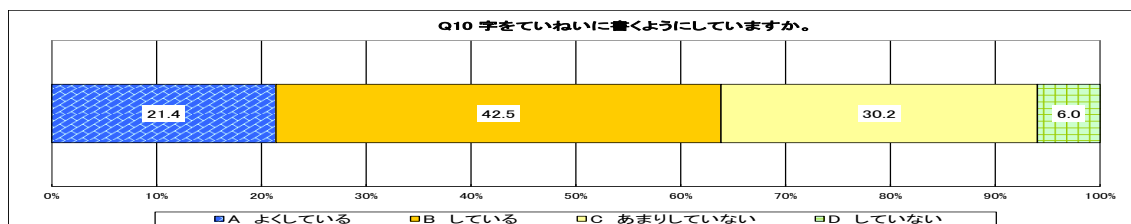
保護者：学校は熱心に授業に取り組んでいると思う



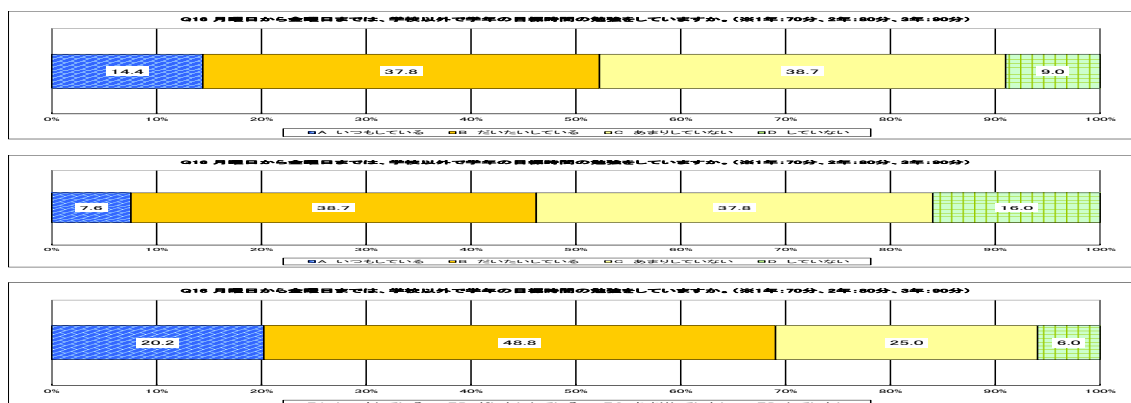
⑨人前でしっかりと自分の意見を言うようにしている。〈R5 全校〉



⑩字をていねいに書くようにしている。〈R5 全校〉



⑩月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。
 (※1年:70分 2年:80分 3年:90分) (R5) 上段1年生 中段2年生 下段3年生

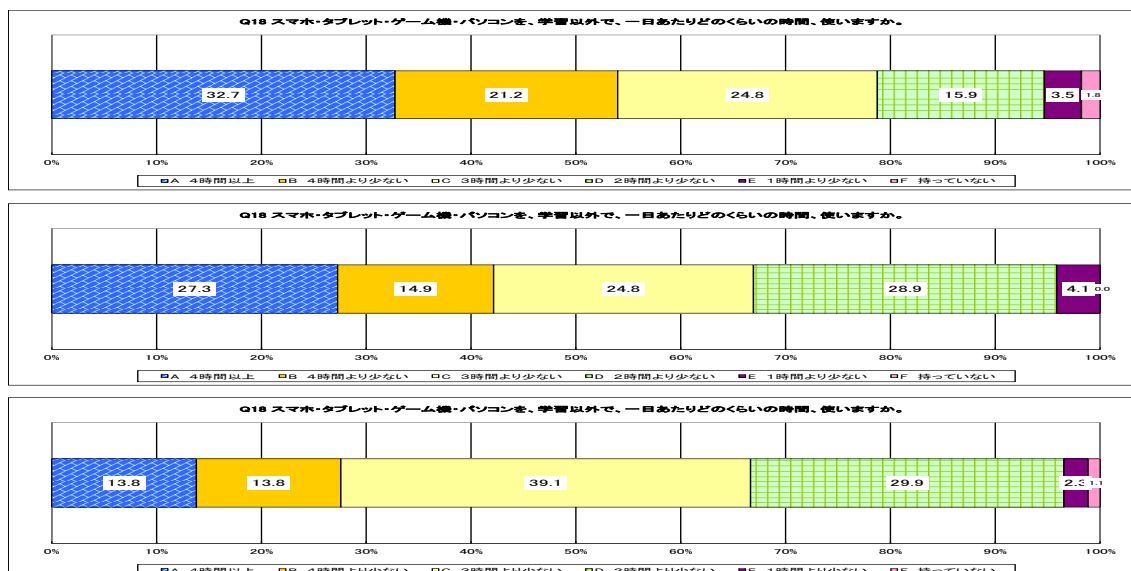


※AB評価1年生 52.2%, 2年生 46.3%, 3年生 69%。CD評価1年生 47.7%, 2年生 53.8%, 3年 31%。

⑪月曜日から金曜日までは家や図書館などで一日あたりどのくらいの時間読書をするか。

※「全くしない」割合が1年生 37.5%, 2年生 42.5%, 3年生 41.4%である。昨年度の同学年よりも多い状況である。

⑫スマホ/タブレット/ゲーム機/パソコンを学習以外で1日あたりどのくらいの時間使いますか。 A 4時間以上 B 4時間より少ない C 3時間より少ない D 2時間より少ない E 1時間より少ない F 持っていない
 (R5) 上段1年生 中段2年生 下段3年生



※2時間以上している生徒が、1年生 78.8%, 2年生 67%, 3年生 66.7%で、昨年度より1, 2年生の学年で増加している。

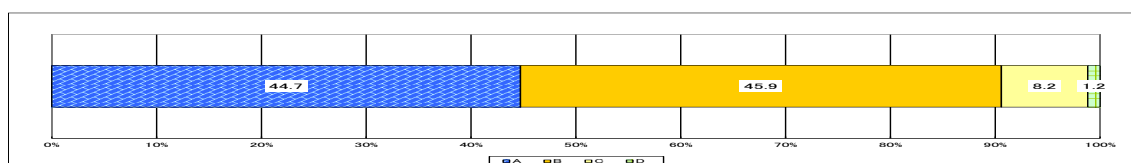
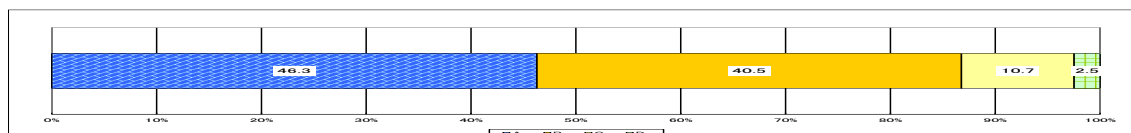
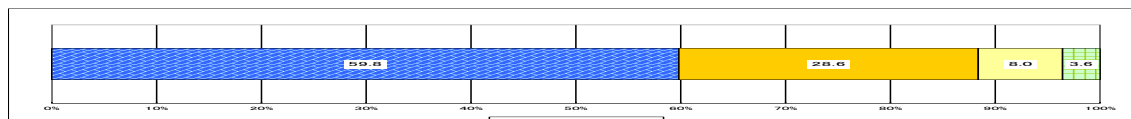
オリジナル項目

②⑥あなたは、フリートークの時間が好きですか。

※AB 評価は、1 年生 72.3% 2 年生 71.7% 3 年生 74.4%。

②⑦あなたは、クロームブックを使った授業は好きですか。

(上段 1 年生中段 2 年生下段 3 年生)



*AB 評価は、1 年生 88.4% 2 年生 86.8% 3 年生 90.6%。

改善策

- ・生徒アンケートで、「学校の授業は楽しいですか」はA評価とB評価が減りC評価とD評価が1割増えている。「先生はよく勉強を教えてくださいませんか」の項目において、A と B 評価の合計で比較すると、生徒のアンケートで3 学年とも 96%以上と高い数値を示している。教師と保護者の AB 評価 (肯定的な評価) も同様に高くなっている。今後もより多くの生徒が、「わかる」「楽しい」と感じる授業を提供していきたい。
- ・「人前でしっかりと自分の意見を言うようにしている。」は、昨年度同様な評価である。コロナ禍での生活で、話すことに対して消極的になっていることも要因と考えられる。今年度も1 学期に昨年度に続き、道徳の授業で講師に菊池省三先生を招き、生徒の自己肯定感を高める師範授業を全教職員が参観することができた。また帰りの会では、フリートークの時間をとって、生徒がコミュニケーションをとる取組を行ってきた。これからも更に取組を継続していき、コミュニケーションあふれる学校をつくっていききたい。
- ・「ICT を効果的に活用した授業を行っている」において教師はA B 評価が 100%，生徒は「クロームブックを使った授業が好きだ」と 88.3%が回答している。昨年度の結果より大幅に向上している。これからも教師は ICT を使う授業を計画的に実施し、生徒の理解力を向上させる、よりわかる授業をつくっていくことが必要である。
- ・生徒アンケート②⑥の「月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか」の観点では、「A 勉強をいつもしている」「B だいたいしている」と回答した生徒は1 年生 52.2%，2 年生 46.3%，3 年生 69%であった。また②⑦「月曜日から金曜日まで家や図書館などで一日あたりどのくらいの時間読書をしますか」は全校で「D 全くしない」と回答した生徒が1 年生 37.5%，2 年生 42.5%，3 年生 41.4%いる。一方、②⑧「スマホ/タブレット/ゲーム機/パソコンを学習以外で一日あたりどのくらいの時間使いますか。」(保護者も同様)について、2 時間以上している生徒が、1 年生 78.7%，2 年生 67%，3 年生 66.7%で、昨年度より1，2 年生の学年で増加している。このように、家庭での学習習慣の確立と学習の内容についても指導していきたい。今後も、これまでの小中連携教育の成果を生かし、家庭学習への取組を、これまで以上に推進させていきたい。
- ・今年度も不登校生徒や怪我や入院など学校に来られない生徒に対して、希望があればクロームブックを貸し出し、リモートでの授業参加を行ったことは大きな成果である。これからも柔軟に生徒・保護者の要望に対応していきたい。

IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

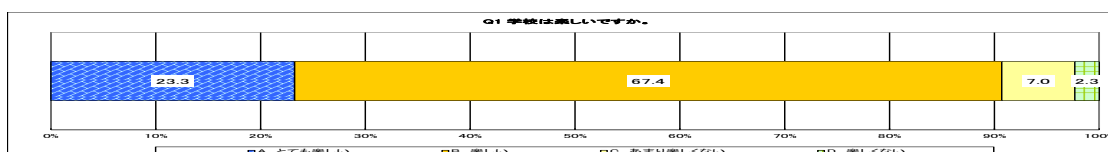
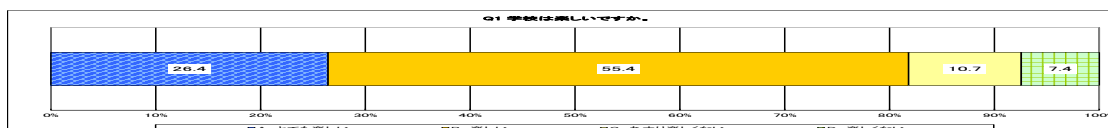
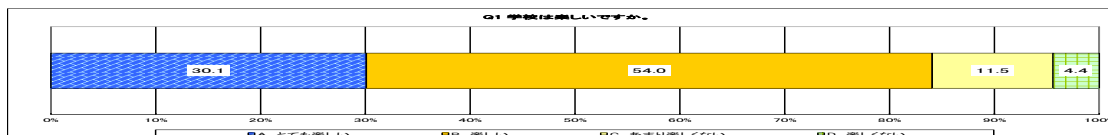
達成状況

・教師の自己評価は、6項目中2項目においてA評価が最頻値となっている。

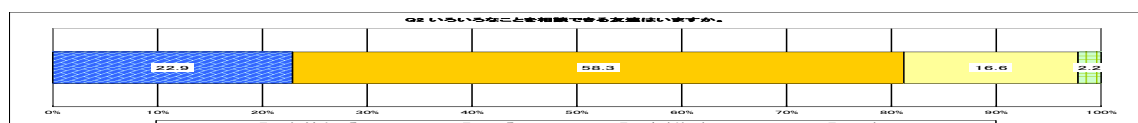
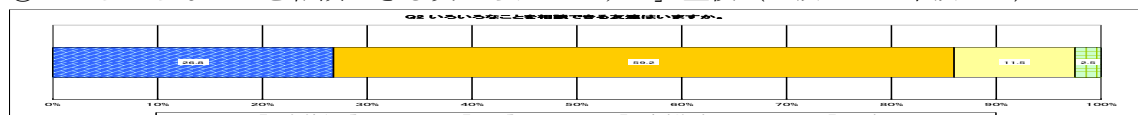
※「生徒アンケート」全校集計より

①「学校は楽しいですか」（R5）上段1年生 中段2年生 下段3年生

A 楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない



②「いろいろなことを相談できる友だちはいますか」全校（上段R4 下段R5）

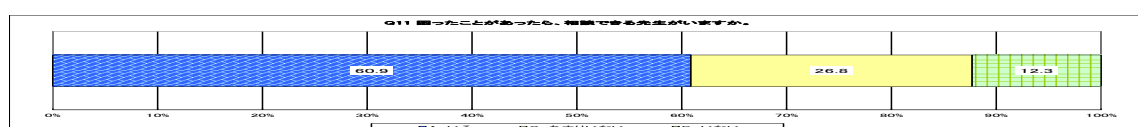
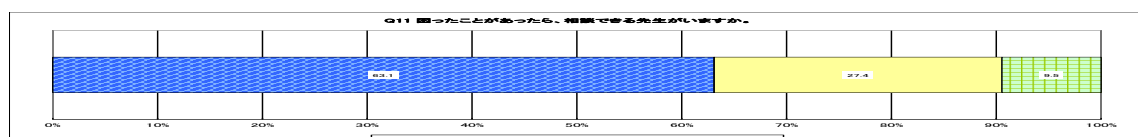


※R5では「あまりいない」「いない」と答えた生徒がR4より増加している。

【関連項目のA評価とB評価の合計による比較】（R4）

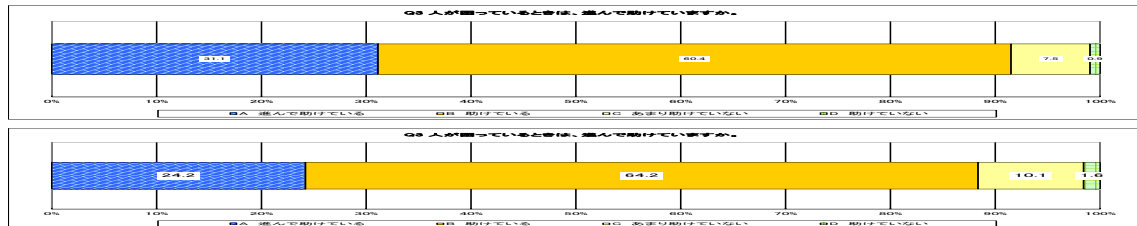
⑪「困ったことがあったら、相談できる先生がいますか」（上段R4 下段R5）

A いる C あまりいない D いない

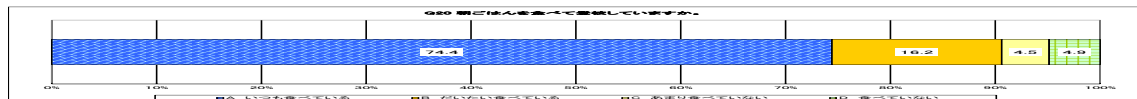


※昨年度よりも「A いる」は減少し、「C あまりいない・D いない」の割合が若干増えている。関連項目でも保護者は40%が「C あまりいない・D いない・E わからない」と回答している。

③「人が困っているときは、進んで助けていますか」（上段 R4 下段 R5）全校



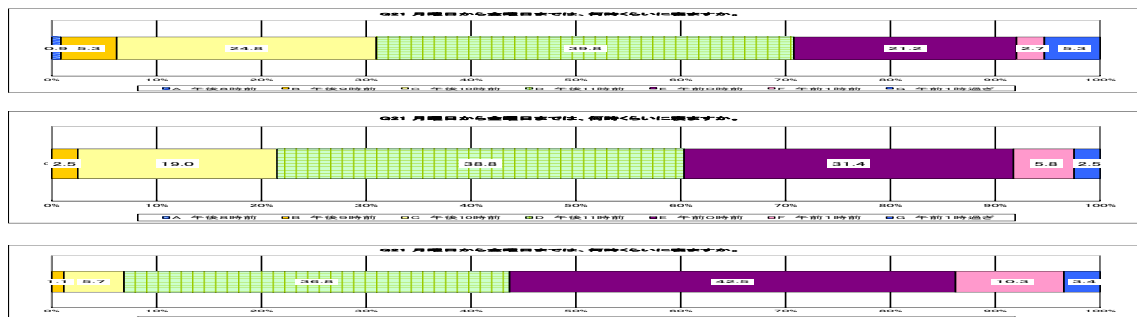
②①「朝ごはんを食べて登校していますか」（R5）全校



①⑤月曜から金曜日までは、何時くらいに寝ていますか

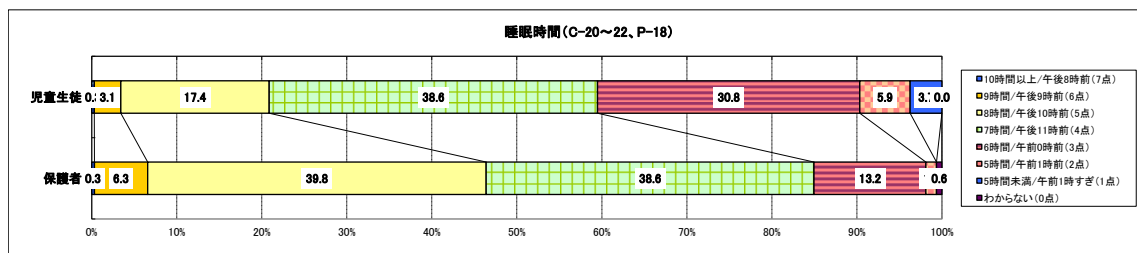
（上段 1 年生 中段 2 年生 下段 3 年生）

A 午後 8 時前 B 午後 9 時前 C 午後 10 時前 D 午後 11 時前 E 午前 0 時前 F 午前 1 時前 G 午前 1 時過ぎ



①⑧保護者：平均睡眠時間はどれくらいですか 全校

A:10 時間以上 B: 9 時間 C: 8 時間 D: 7 時間 E: 6 時間 F: 5 時間 G: 5 時間未満 H:わからない 生徒との関連図

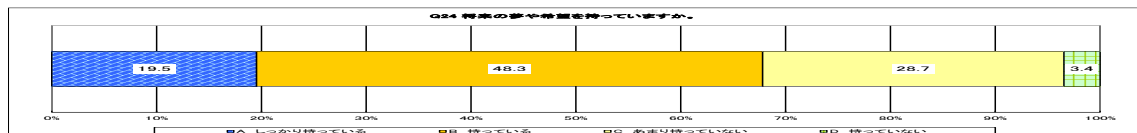
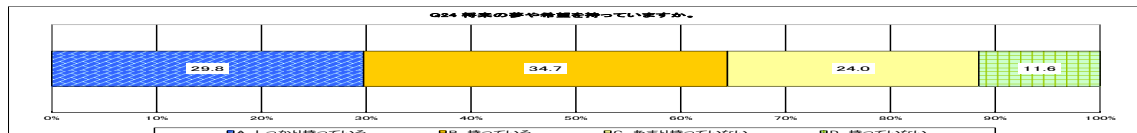
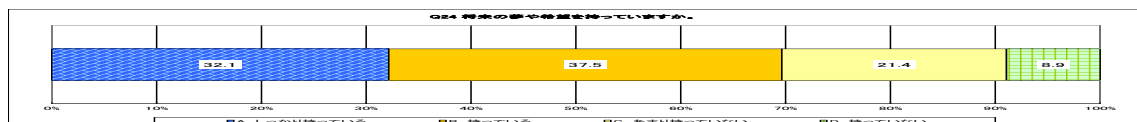


※保護者は全体集計で 8 時間 39.8%， 7 時間 38.6%と答えているが、生徒は 0 時以降に就寝している生徒が 1 年生 8%， 2 年生 8.3%， 3 年生 13.7%いる。また午前 1 時過ぎの就寝も各学年いる。例年と同じで生徒は保護者が考えているほど睡眠をとっていない。

①⑨家の人と学校での様子を話していますか。

※家の人と話をしている割合は 80%程度どの学年も達成しているが、 1 ～ 2 割程度、家の人と話をしていない生徒がいる。

②④将来の夢や希望をもっていますか。(R5)上段1年生 中段2年生 下段3年

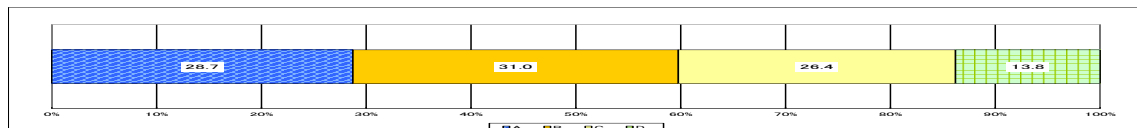
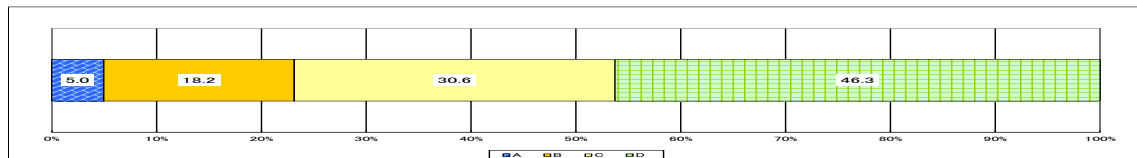
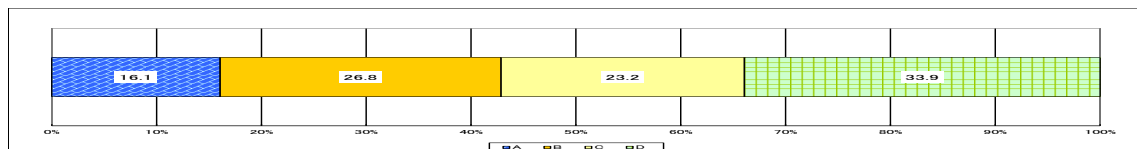


※夢や希望については、全学年 70%程度 AB 評価である。

オリジナル項目

②⑥あなたは友人関係にストレスをのかかえていませんか。(上段1年生 中段2年生 下段3年生)

A かかえていない B 少しかかえていない C 少しかかえている D かかえている



※どの学年でも 30%から 40%の生徒がストレスとかかえている。

改善策

- ・「学校は楽しいですか」「いろいろなことを相談できる友達がありますか」において昨年度同様肯定的な AB 評価は高い。甲斐市では生徒間の人間関係の理解を深める Q-U テストを行っていたが、本校では i-check を一昨年度から継続し、更に詳しく生徒一人ひとりの状況を確認し、学年職員や担任が指導の手立てとしている。また一昨年度から各学期 1 回「いじめアンケート」を、毎月「生活アンケート」を実施している。更に本校では、生徒理解の一助とするため、担任と生徒が毎日「やりとり帳」を通して日々の生活についてやりとりしたり、「家庭学習ノート」で個別に生徒の状況を把握したりしている。これらの取組から、問題となる、また問題となりそうな事例を迅速に把握し、速やかに学年会議や職員会議、生徒指導部会、生徒理解部会などでその状況を共有し、迅速に相互に情報交換を行っている。また、事例によっては外部機関との連携を行い、よりよい解決を図ってきた。その結果、問題が大きくなる前に解決したり、問題が更に大きい事になってしまったりということを未然に防げている。「楽しい学校」とは、生徒それぞれに感じ方があると思うが、生徒同士、生徒と教員同士の関係が良好で、安心して生活することができる玉幡中学校を目指し、今後も様々な取組を継続していきたい。
- ・「困ったことがあったら、相談できる先生がいますか」において、昨年度より数値が良くなっている。昨年度の課題であった項目だが、話し合い活動の制限もなくなり、教師

と生徒が相互理解する時間的余裕が少しずつとれる状況に変わってきている。引き続き、良好な関係づくりを積み重ね、何かの問題を早期発見したり生徒が気軽に悩みを相談できたりするよう、①生徒への積極的な声かけ②二者懇談の活用等、更に全職員で取り組んでいきたい。また「家で話をしていない」と答えた生徒が全体で1, 2割いることも念頭に置き、家庭と連携し、今後もこれらの取組を継続し、いじめの根絶と、生徒一人一人に目を向け、よりよい学校生活が送れるよう意識して努めていきたい。

- ・③「人が困っていたら進んで助けていますか」全校 90%程度が AB 評価で、昨年度と同様である。④「将来の夢や希望をもっていますか。」について、全校 70%程度が AB 評価である。今後も道德の時間を要として、この状況下でできることを模索し、心の教育や生き方教育を推進し、より多くの生徒が、夢や希望をもって生き生きと生活できるよう支援をしていきたい。
- ・生活リズムの乱れは睡眠にも起因する。朝ごはんを食べている割合は高いが、睡眠は、全体的に改善を要する生徒が多くいる。また保護者の把握している生徒の睡眠時間と生徒のものに差異がある。生活リズムの乱れが心配である。オリジナル項目「友人関係にストレスを抱えていませんか」において、どの学年も 30%～40%の生徒が「抱えている」と回答している。友だちとの交流も減っていることも考えられる。今年度も1学期には、菊池省三先生を招いて生徒の自己肯定感を高める道德の師範授業や帰りの会でのフリースタイルタイムを継続するなど、様々な場面で生徒のコミュニケーション力向上を行ってきた。これらの取組をこれからも継続していきたい。「睡眠」「ストレス」は学校生活や学習にも影響することを考えると、家庭と学校が協力して現状を理解し改善していく取組を今後も、更に考えていく必要がある。

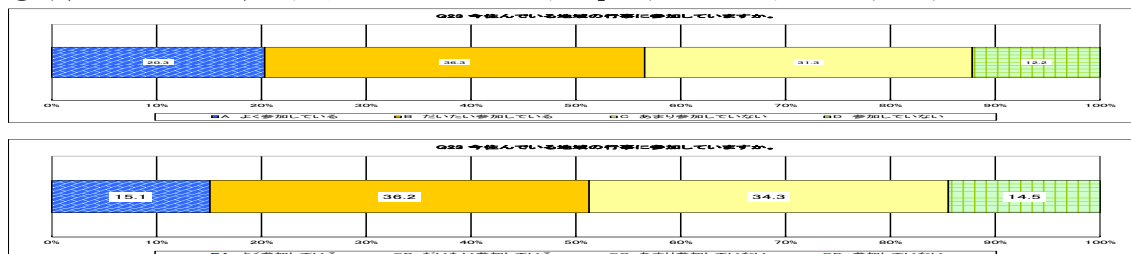
V 地域との連携について

達成状況

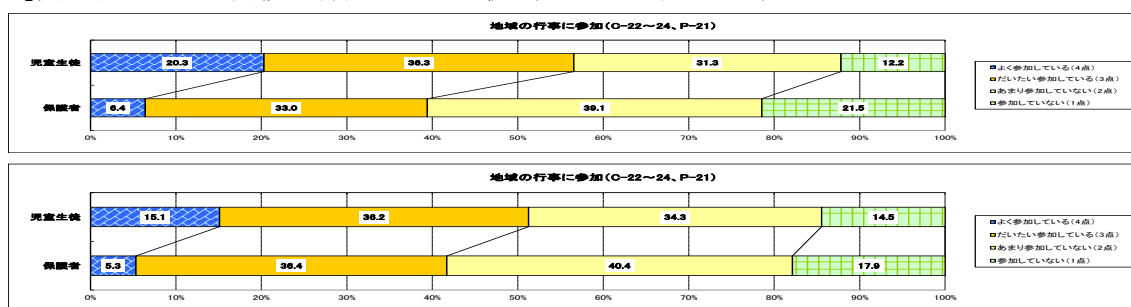
- ・6項目すべてにおいて B 評価が最頻値であった。
- ・「あなたの学校は、地域・保護者と連携し、児童生徒の安全確保に努めている。」において肯定的な AB 評価が高い。

※「生徒アンケート」全校集計より

⑩今住んでいる地域の行事に参加していますか（上段 R4 下段 R5）全校



【関連項目の AB 評価の合計による比較（上段 R4 下段 R5）



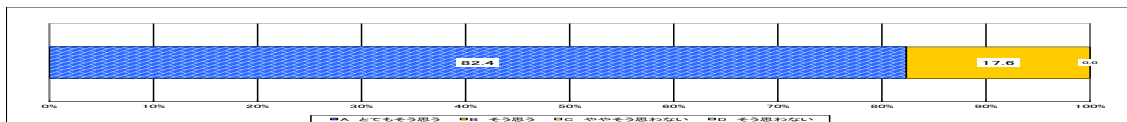
生徒（上段）：今住んでいる地域の行事に参加していますか

保護者（下段）：お子さんは今住んでいる地域の行事に参加していますか

A:よくしている B:だいたい参加している C:あまり参加していない D:参加していない

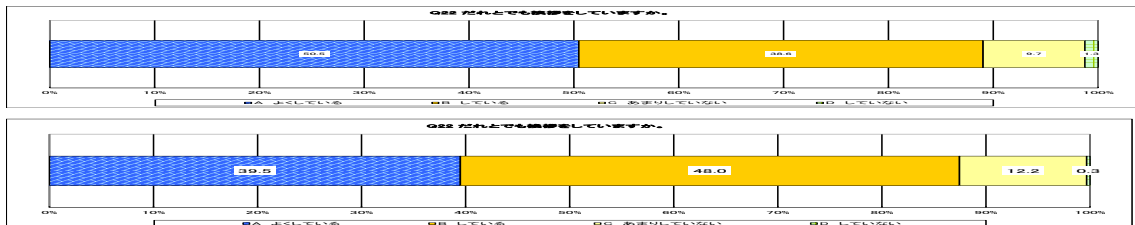
	保護者⑪「PTA 活動に参加していますか」（上段 R 4 下段 R 5）
改善策	・「保護者の PTA 活動への参加」状況は、昨年度と同様である。今年度は、5 月にコロナが五類に引き下げられたことによって、様々な制限制約が少なくなった。それにより、PTA 活動は令和元年度以来にほぼ戻り、様々な活動を行うことができた。学園祭では、文化の部、体育の部ともに、生徒が「保護者の方々の想いに応えよう」と事前の取組や活動の成果を披露した。今後も、年間計画に沿った授業参観や学校開放を実施していき、開かれた学校づくりを推進していきたい。 ・教職員の「地域の人材活用・施設活用」「保護者や地域の願いに応えるため要望を聞くなど情報収集を行っている」「あなたは PTA 活動に積極的に参加している」において B 評価が最頻値である。研修部主催の吉田永正先生を招いての講演会は、全校生徒と保護者対象に行うことができた。終日の学校開放と講演会を同日にしたことで、保護者の参加が少なくなってしまう、残念であった。来年度はこの点に留意して、年間行事予定に諸行事を位置づけていきたい。これまでコロナ禍で地域の人材の活用も難しい状況であったが、今後は学校運営委員会や学校関係者評価委員会等で地域や保護者の声をお聞きする機会を活用し、地域人材をより活用したり、地域からの要望を聞いたりできるよう、保護者への協力をお願いしていきたい。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	・4 項目のうち 3 項目が A 評価である。 ・「あなたは生徒が夕学や家庭学習に取り組むように指導に努めている。（教員）」 ・「あなたは生徒理解に努め、生徒との信頼関係を築くように努めている」（教員） ・「あなたはフリートーク等、生徒のコミュニケーション向上に努めている」（教員） ・「あなたは、フリートークの時間が好きですか」（全校生徒）

- ・「あなたは挨拶を積極的にしようと努めている」（教員）



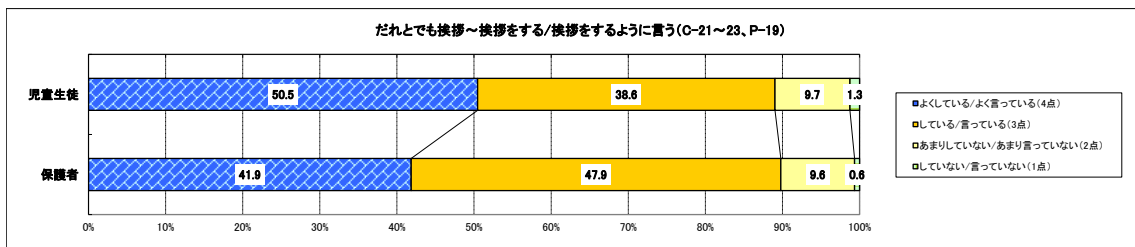
※「生徒アンケート」全校集計より

②だれとでも挨拶をしていますか。（上段 R 4 下段 R 5）全校生徒



【関連項目の AB 評価の合計による比較】（R 5）

生 徒：だれとでも挨拶をしていますか 保護者：家庭で挨拶するよう言っている・学校は挨拶するよう指導している。



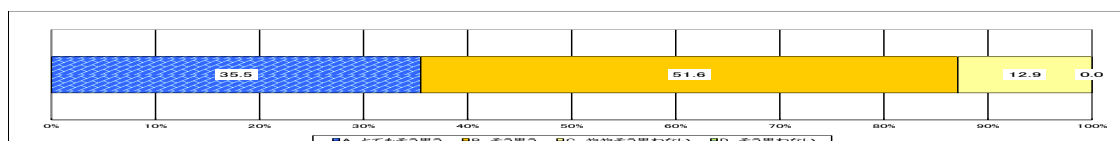
改善策

- ・小中連携の指定は終えたが、今年度も継続して、小中連携して「フリートーク」に取り組んだ成果が出ている。特に 1 年生において「フリートークの時間が好きですか」に対して 72.3%の生徒が好きだと答えている。小学校から取り組むことで「フリートーク」を習慣化し「コミュニケーション能力の向上」や「対人ストレスの軽減」に繋がると考え、今後も取り組んでいくとともに、玉幡中の特色として定着してきていると考えられる。教師の指導と生徒の意識の若干異なりも見られるが、生徒への説明を丁寧に行いながら、今後も継続して粘り強く取り組んでいきたい。
- ・「あいさつの推進」に関しては、「教職員の登下校指導におけるあいさつ」「保護者や保護司の正門でのあいさつ活動」「生徒会のあいさつへの取組」「小中連携でのあいさつ運動」など、様々な活動を行っている。生徒の評価もおおむね肯定的である。今後も開かれた学校を目指し、継続して活動を進めていきたい。

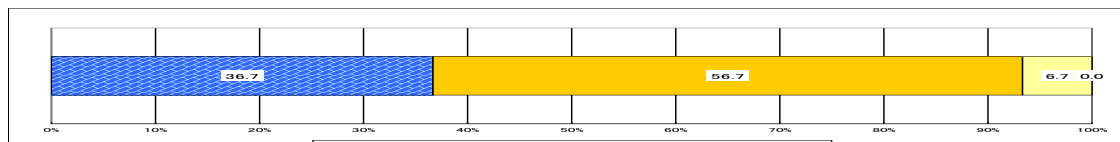
VII 創甲斐教育について

達成状況

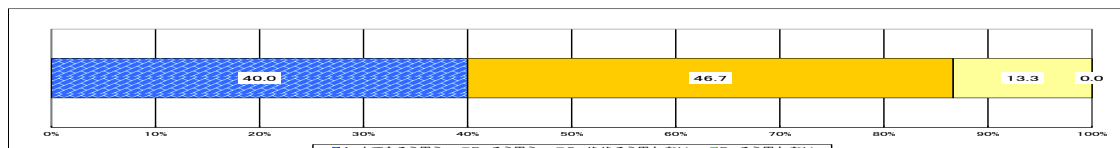
- ・創甲斐教育については、各学校で創甲斐教育をもとに、オリジナルで考えた項目であるが、AB 評価の合計は 90%に近い。
あなたは国語力の向上、言語活動に積極的に取り組んでいる。



あなたは、道徳の授業や道徳の教育に意欲的に取り組んでいる。



あなたは、生徒の体力向上に積極的に取り組んでいる。



改善策

- ・言語活動は、さまざまな取組が考えられる。特に話し合い活動などは、コロナ禍の中では難しかったが、主体的・対話的で深い学びの授業改善のためには、言語活動の充実が欠かせない。国語の授業だけでなく教育活動全体で言語活動の充実に努めていきたい。
- ・道徳の授業については、今年度 1 学期に菊池先生を招いて自己肯定感を高める取組を行った。また友だちとのコミュニケーションあふれる学校にしていきたいために、帰りの会に全校で「フリートーク」を継続して取り組んだ。学年によっては、担任だけでなく学年所属の教員もクラスに入って、ローテーションで道徳の授業を行っている。「議論する道徳」に移行して 5 年目となるが、全教職員の協働により、これからも生徒と共に道徳の授業を研究し、自信を持って実践していけるようにしていきたい。
- ・「体力向上」については、中学校では体育の授業以外に部活動もあるので、意識して取り組んでいる教員は多い。しかし、全員が専門の部活動の教員ではないので、A 評価になるほどは自信が無いということも考えられる。生涯、生徒が健康で生活できるように教師も共に体力づくりに励んでいきたい。

3 まとめ<成果と課題>

- ・今年度は 5 月にコロナが五類扱いとなり、ほぼ通常に戻った教育活動を行うことができた。本校ではこれまで、多くの制限や制約がある中で、できることを着実にやり、生徒が健やかに成長できるよう取り組んできた。今後は、様々な観点から見直しや検討を行って、生徒がより充実した学校生活が過ごせるように努めていきたい。
- ・本校にはかつて生徒指導上の諸問題が多くあり、甲斐市教育委員会をはじめとした関係諸機関と連携する中で、それらの問題解決を図ってきた。様々な取組を経て、今では生徒たちは落ち着いた学校生活を送っている。しかし、今後も危機管理意識をもって、この状態を維持・向上させられるよう、教職員一丸となって安心安全な学校・玉中教育の更なる向上に努めていきたい。
- ・保護者・保護司・生徒による朝のあいさつ運動、毎日の教職員の登下校指導を例年通り継続的に行ってきた。また例年行われてきた 8 月の保護者・生徒で校庭及び周辺の環境整備活動

は、今年度多くの保護者の協力のもと、実施することができた。また、学園祭は人数の制限なく保護者に参観していただくことができた。

- 保護者の方々が学校に協力や貢献しようと努力してくださっていることに対し、とても心強く勇気をいただいた。今後もさらに地域とともにある玉幡中を目指し、継続していける取組を考えていきたい。
- 校内研で 9 年間を見通した小中連携による「学力向上」をテーマに「家庭学習の充実」「帰りの会の前の授業の振り返り」「やりとり帳による担任と生徒とのつながり」、またコミュニケーション力の向上を目指して、菊池先生を講師に招き道徳の授業を取り入れるなど、学校では様々な取組を行って、学習面・精神面で生徒支援に努めている。しかしアンケートにもあるように、学校での授業に関わる課題や、家庭でのスマホ等の使い方や睡眠時間や学習時間についての基本的な生活習慣の見直し等、学校と家庭がより一層連携して取り組む必要がある。また、県や市からの小中連携研究校の指定は終了したが、小中の教職員で培ってきた実践を無理なく今年度も児童生徒のために行ってきたので、これからも継続していきたい。玉中学区の子ども達が自分自身の力で未来を拓いていかれるように育てていきたい。
- 今年度は、ギガスクール構想による一人一台パソコン（クロームブック）やデジタル教科書の導入、新学習指導要領の全面实施 3 年目となり I C T 機器の活用による個別最適な学びが求められるようになった。そのため教師は学びの連続で、走りながら考え、トライアンドエラーの連続で、さらにコロナへの対策などで疲弊していることが、教師の学校評価の「多忙すぎる」という言葉から伺える。このことは、生徒への指導への影響も懸念される。やはり、今の状況を打開するのは、教員の増員を切に願う。
- 今年度も継続して、希望によるリモートでの授業を行ったことは、これからのオンライン授業などへの移行を考えると成果であるが、全ての教師が ICT を得意だということではないので、これから相互に学んでいく必要がある。
- 今年度も地域から本校生徒の美しい行動についてお褒めの言葉を何度もいただいた。今後も学校教育目標を具現化できるよう、また公の社会で通用する人間に、そして、しなやかな心を持った生徒の育成に全教職員で組織をあげて取り組んでいきたい。